

## 平成 20 年度 第 2 回四日市市次世代育成戦略プラン推進委員会 会議録

日時

平成 21 年 2 月 5 日 (木) 9 時 30 分 ~

場所

四日市市役所 11 階 第 4 委員会室

出席委員 (敬称略、順不同)

中西 智子	学識経験者 (三重大学教育学部 教授)
今村 真有美	保育園保護者会代表 (四日市市立保育園連合保護者会 副会長)
水谷 雅子	子育て市民団体関係者 (ままたまご 代表)
中川 義文	P T A 代表 (四日市市 P T A 連絡協議会 会長)
藤澤 和実	民生委員・児童委員代表 (四日市市民生委員児童委員協議会連合会 副会長)
山田 明美	主任児童委員代表 (四日市市民生委員児童委員協議会連合会主任児童委員部会地域代表)
日置 茂二	社会福祉協議会代表 (四日市市社会福祉協議会 事務局次長兼総務課長)
仲井 誠民	事業主代表 (四日市青年会議所 理事長)
津田 浩二	四日市幼児教育連絡協議会幼稚園代表 (四日市私立幼稚園協会 会長)
佐々木 正利	四日市幼児教育連絡協議会保育園代表 (四日市私立保育連盟 副会長)

欠席

山口 幸恵 育成会代表 (四日市市子ども会育成者連絡協議会 理事)

事務局

西村 弘典	福祉部次長
村田 智	児童福祉課長
伊藤 善信	児童福祉課長補佐
山口 孝文	児童福祉課
村上 正樹	教育総務課長
佐久間 秀夫	社会教育課長
伊藤 昌夫	青少年育成指導室長
大西 徳雄	教育総務課
吉田 尚司	経営企画部参事兼政策課長
加藤 亜希	政策課
水谷 泰造	男女共同参画課副参事

内容

### 1. 開会

事務局 (福祉部次長)

本日はお忙しいところ、平成 20 年度第 2 回四日市市次世代育成戦略プラン推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

前回の委員会でも説明しましたが、委員の皆様には、前期の「次世代育成戦略プランの進捗の点検」、  
「次世代育成支援に関する事業や取り組みの課題の抽出」と合わせて、「後期プランの策定」にも、力をお貸しいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日、お手元に配布しました資料についてご説明します。資料 1 は前回の会議で柱となる 4 項目について、委員の皆様からいただいたご意見を表にまとめたものです。裏面は、前年度までのご意見をまとめたものでございます。

資料2は、本日ご議論いただくニーズ調査の項目について一覧表にしたものと、本日差し替えをお願いする調査票でございます。内容は、議事のところで説明させていただきます。

それではここからの議事につきましては、委員長にお願いしたいと思いますので、中西委員長、よろしく申し上げます。

## 2. 議事

### (1) 第1回推進委員会における委員からの質問等について

中西委員長

「第1回推進委員会における委員からの質問等に対する回答について」、事前に説明資料を送っていただきました。これについて、ご質問や確認の必要があれば発言をお願いします。しばらくして……委員からの質問なし。

### (2) 後期行動計画策定のためのニーズ調査項目について

中西委員長

事前配布しております、「乳児用及び就学前用のニーズ調査票」をご覧ください。まず、事務局からニーズ調査について説明願います。

事務局（児童福祉課長）

資料2の1をご覧ください。ニーズ調査票については、遅くとも2月中に発送し、2週間程度の間で回収したいと考えております。年度内に単純集計を実施し、来年度の委員会には、クロス集計等の分析をお示ししたい。対象は無作為抽出をした4,000人の保護者となっております。2,000人は乳幼児の保護者であり、残る2,000人は小1～6年生の保護者です。5年前のニーズ調査は約49%の回答率でありました。今回は50%以上の回収を目指したいので、ニーズ調査票の締め切り前に、対象の保護者宛に督促状を発送したいと考えております。

資料2-3をご覧ください。国の欄に印があるところは、今回ニーズ調査を実施するにあたり、国から示された項目です。前回の欄に印があるところは、5年前のニーズ調査に含まれていた項目です。いずれにも印が無いところは、今回本市独自で入れていきたい調査項目です。設問番号ごとに設定理由も掲載していますので、ニーズ調査票とあわせて資料2-3をご覧ください。この後、委員の皆様からニーズ調査票について、ご意見をいただきたいと思っております。

資料2-1をご覧ください。主な調査項目の設定について、国が示した項目は祖父母や友人にお子さんを預けている状況です。「就労していない母親の今後の就労意向について」、将来に向けての保育ニーズ（特別保育を含む）を把握したいという意図の質問でございます。「保育サービスが整備されていたら、引き続き就労していたか」という設問もあります。育休明けで保育所が見つからなくて、仕事ができない状況は、特に都市部で顕在化しておりますが、今後の基盤整備の関係で新たに打ち出したものです。「宿泊を伴う一時預かりについて」の設問がございますが、これは24時間保育について、実際に要求があるのかお尋ねする項目です。「保護者の育児休業の利用の有無」については、委員の皆様からも意見をいただいている育児と就労の両立支援のご意向も聞いております。

前回の調査と同様に「民生委員に相談されたことがあるかどうか」の設問を設定しております。子どもを虐待しているという不安感についても設問を設定しております。児童の虐待防止法が制定される前から、本市では虐待防止ネットワークを設置して虐待防止に取り組んでおりますので、市独自で調査項目に設定しております。

印は、今回新たに設けた設問です。国については、母のみに就労状況を聞いておりますが、昨今の経済事情もあり、本市では父についても就労状況をお尋ねしたいと考えております。調査については、「どのようにして子育て情報を入手しているか」、「市からの子育て情報は有効であったかの満足度」、「地域での子育て支援の自主活動をするにあたり、行政への支援について何を求めているのか」

などを聞き取りしております。

印は、小学生用のアンケートでも同様の設問を設定しております。小学生用の調査については、学童保育に焦点を絞っております。「お子さんの放課後の時間の過ごし方」、「保護者はどのように望んでいるのか」、あるいは、「学童保育所に対する満足度」などを聞き取りしております。

資料 2-2 をご覧ください。新任した市長のマニフェストに掲げてある、教育と子育て支援関係について抜粋したものです。「笹川地区における多文化共生モデル地区」、「学校授業の環境の改善」ということで、空調設備を検討していく、子育てでは「第三子以降の保育料の無料にする」、「子育て支援センターを 17 箇所にする」、「保育園の公私の機能分担」、「特別保育の充実」、「24 時間保育の導入の検討」、「待機児童をゼロに進める」。男女共同参画のための、「父親の子育てマイスター制度」を創設する。これらの事業を行うため、無駄を省き、財源を確保する。民間の市民活動団体と共同で事業を行う。今後の戦略プランの策定するにあたっては、これらも踏まえながら、推進していきたいと思えます。

ニーズ調査票の用語について説明を掲載しております。例えば「学童保育」について、簡単な言葉の説明をしております。ニーズ調査票について、設問の分かりやすさ答えやすさ、レイアウトなども含めて、この後委員の皆様からご意見を賜りたいと思えます。

中西委員長

アンケートについてお気付きの点がありましたらご意見いただきますようお願いいたします。しばらくして・・・委員の皆様からの意見も無さそうなので次の議題に進めさせていただきます。

### (3) 提言取りまとめに向けた意見交換

中西委員長

後期計画策定に向けて、推進委員会として提言を取りまとめることになっており、前年度から、4 つのテーマに絞って議論しております。「情報提供」、「ネットワーク作り」、「企業への働きかけ」、「家庭への対応」となっています。この 4 つのテーマに限ってご意見をいただきたいと思えます。本日配布した資料 1 も参考にしながら、ご自由に意見をいただきたいと思えます。

来年度からは、提言の具体的内容に入ってきますので、フリートークの形でご意見をいただくのは、今回が最後と思えますので、テーマに沿って積極的にご発言いただきますようお願いいたします。

佐々木委員

「情報提供について」

大谷台小学校について、以前は 4 クラスで 6 学年であったが、現在は 3 クラスで 6 学年になったということは空き教室があるはずだと思います。他の用途に使えない理由があるのでしょうか。四日市市ではなぜ柔軟に対応しないのか疑問に思えます。

事務局（社会教育課）

単に、学年のクラス数が減ったからといって、学校の教室が空いてくるかというと、そうではありません。少人数教育などで複数の教室を使用している為です。余裕教室があるところは、積極的に開放するよう学校に依頼しております。例えば桜・神前などでは余裕教室を学童保育所に利用していません。

中西委員長

少人数教育などで空き教室を利用しているとの説明ですが、保護者間では余裕教室は無いということを知らないわけですよね。それならば、何らかの形で情報提供すべきでしょうね。

山田委員

ニーズ調査の結果がどのように反映されるのかが見えないと、実施する意味がないという意見があります。無作為抽出により対象者を選出することですが、多くの方に意見を聞いて欲しいです。

育児休業のことについて、パートなので育児休暇が取れないので保育園を諦めるしかないという声を聞きました。

中西委員長

ニーズ調査結果がどのように反映されるのか、事務局から説明願います。

事務局（児童福祉課長）

アンケートの反映については、例えば母親の就労について、何歳の子どもの保護者がニーズ持っているかを聞いているので、今の状況で確保できているのか、計画の中で目標の数値化をして、そこで分析し、それを数値として反映させていきます。

乳幼児のアンケートの中で小学校に上がった学童は必要かということ聞き、将来市内にいくつの学童が必要かといったことの推計をしていきたい。

「悉皆調査」という方法もあるが、それだと時間と郵送料がかかります。統計学的には対象の何%か調査をすれば傾向が分かるといわれております。

保育園については、保育を必要とする方だけをお預かりしており、家で見てもらえるなら家というのが保育園の宿命です。その中で4~5歳児については、集団生活に溶け込むという意味からそのまま預かっており、市独自で3歳児についても在園児のみ預かっています。パート及び自営業については育児休業証明がないので、育休明け予約ができません。

公立幼稚園では、4歳~5歳のみ預かっていますが、民間幼稚園では3歳から預かっているところがあります。また最近では、民間幼稚園では2歳児も預かっているところがあり、時間も延ばしていただいているところがあると聞いております。

津田委員

民間幼稚園では子育て支援という目的で預かり保育を充実させていく方向にあり、長いところで、7時まで預けることが可能です。ただし、幼稚園側の負担が大きいため、限界はあります。

幼稚園児としては3歳児から預かることが出来るが、幼稚園によっては子育て支援の形で2歳児から預かっているところもあります。ただし幼稚園児として認められないため、助成等が受けられず、児童の受け入れには限界があると感じています。

中西委員長

ということは、2歳児でも幼稚園に預けることが出来るわけですね。

津田委員

あくまでも子育て支援という形で受け入れているため、2歳児は幼稚園児としてはみなしません。

事務局（児童福祉課長）

「構造改革特別区域計画」の申請をして認定を受ければ、幼稚園児として2歳児を預かっているところもあります。また、「認定子ども園」の制度があり、例えば、保育園の立場から言うと、保育を必要なお子さんでなくても保育をすることが出来る。幼稚園側から言いますと本来は3歳児からお預かりすることが出来ますが、認定こども園であれば0歳児から2歳児であってもお預かりすることが出来る。「認定こども園」とは、認可の幼稚園に認可外保育所が引付いたものとお考えください。

来年度から国の制度見直しもあり、認可外の部分についても運営費助成するということになっている。ただし3年以内に認可にしなければという条件があります。そのための施設整備についても国からの補助制度があります。

認定子ども園は全国的にも229箇所しかありません。国が目標とする数値には全然及んでいません。理由としては事務が煩雑であることなどが考えられます。三重県には認定こども園はありません。本市においては、塩浜西保育園と塩浜幼稚園で幼保一体化園として実施しております。

藤澤委員

「家庭への対応について」

民生委員を受け入れてもらえない家庭に訪問することが非常に困難であります。0~6訪問をしていますが、自分のところは対象者が少ないので全戸訪問できるが、新興住宅地などでは男性の民生委員は受け入れてもらえないのが現状です。その場合は、主任児童委員と相談して受け入れてもらえるように連携を図っておりますが、地域を守っている存在になれば、皆さんの中に入っていただけるのかとは思っています。また、民生委員は地域により温度差があります。

四日市市役所では男性職員が育児休業を取得したことはありますか。

事務局（男女共同参画課）

男性職員の育児休業の取得については、2名が1年間取得しています。制度の啓発はしていますが、なかなか浸透しないのが現状です。

藤澤委員

復帰したときに職場は確保されているのでしょうか。

事務局（児童福祉課長）

原則は、育児休暇をとった後は元の職場に戻ることになっています。

佐々木委員

職場へ復帰するための研修制度はありますか。

事務局（児童福祉課長）

休業中にトレーナーを付ける制度を導入しております。職員を専任し、職場の情報を範疇しておくことになっております。

中西委員長

私の知人に公務員がおり、父母が二人で一年を分けて取得する話をしていました。母に限らず、父についても子育てに熱心な方もいます。

ITの時代なので、在宅勤務が可能であり、かつ情報提供も充実しているため、職場復帰して途方に暮れることはないと思います。

今村委員

「保育士の数が少ないので、自分たちのやりたい保育が出来ない」と保育士が言っていました。四日市市では保育士を増やす対策は取っていますか。

事務局（児童福祉課長）

保育士の確保は、本当に難しいです。保育士がいなければ、子どもを受け入れる人数も限られますので、四日市市にとっても深刻な問題です。何か手立てがあればすぐにでも実行したいです。

今村委員

看護師については、四日市看護大学を卒業後、市内に数年間勤務すれば奨学金を返還しなくてもよいという制度があり、保育士確保にもこういった制度を導入できないのでしょうか。

藤澤委員

保育士が希望する保育園に入れない、また、一旦保育士を辞めるとブランクを埋めるのが大変という声を聞きました。

津田委員

津市より南では人材確保は比較的容易であると聞きます。津市以北では公立以上に私学の幼稚園教諭は確保が大変であります。あと待遇面の問題もあります。

山田委員

保育園に実習生はあまり来ないみたいですね。

佐々木委員

大学によっては実習生の受け入れを地域限定しているところがあります。

民間保育園では全職員を正規職員にすると赤字になり、運営することが出来ません。当園では正規半分、あとはパート、派遣社員などです。派遣社員は様々な職種の経験があるので、保護者への対応などこちらが非常に勉強になることがあります。

保護者からクレームがあると、五月病になり出勤しない保育士がいると聞きます。

藤澤委員

四日市市には保育士を養成する学校はありますか。

事務局（児童福祉課長）

保育士を養成する学校はありません。

佐々木委員

大学生が実習に行くと、プレッシャーを感じて保育士になるのを辞めてしまうと聞きます。

津田委員

男性の保育士が増えてはいるが、やはり就労環境などを考えると難しい局面もあります。

中川委員

「家庭への対応について」

モンスターペアレンツが話題になっているが、そうした傾向はやはり強いです。小・中学校でも先生がプレッシャーを感じて大変な状況になっています。どうしたらモンスターペアレンツにならなくてすむのかを考えたら、各学校を運営しているPTA会長、地域の人なども関わっていただいているときくが、やはり親の要望が大きいと感じています。

親を対象にした講演会を実施すると、教育に熱心な方だけ出席いただけますが、本当に来て欲しい人に来てもらえない状況があります。

アンケートについて、回答率50%でその中のどれだけが正当な回答とみなしているのか教えてください。

事務局（児童福祉課長）

回答があったもの、全てを対象とします。

水谷委員

「情報提供について」

ぜひ行政側からサークルの活動などを紹介してほしいです。

「ネットワーク作りについて」

児童館に出入りする子の中には、ごみのちらかしや片づけが出来ないなどの行動がある。タバコを吸っている子に、どう対応してよいのか。正当なことを押し付けるようにいっても反発されるし、逆切れも怖いです。見ず知らずの人に注意されたら子どもは反発するが、地域密着のおじさん・おばさんになれば良いのかなと思います。また、地区市民センターが拠点になればと感じます。

「企業へのはたらきかけ」

子育てしながらでも就労しやすい企業（育児休業期間の延長、時短勤務など）が増えればと思います。

仲井委員

昨年度一年間、「親の気付き」と題して、勉強した経緯があります。当委員会でアンケートを作成し120名に依頼しましたが、回答は20名にも至らないという実態です。その時にアンケートの難しさを実感しました。当委員会では設問数というよりも、回答者が答えやすい設問という視点で作成しております。

今回のニーズ調査は後期プラン策定に向けて重要なアンケートであると思いますが、設問数が多いように感じます。書き進めやすい書式にするなどの、工夫が必要ではないかと思います。

津田委員

「アンケートについて」

幼稚園で預かり保育がなかなか充実しないというのは、20年ほど前までは4時間が基本でした。子どものために長時間保育をするのは好ましくないという考え方から、4時間以上の保育はしないという考え方があったようです。現在においては、保護者の多様化の中で柔軟に対応しないといけないと感じています。ただ、安易に子どもを預けるという傾向にならないようにすることが必要であると思います。

このアンケートの設問は「どこかに預けよう」という前提で作られているのではないのでしょうか。

就労している保護者の中には、もう少し自分で保育したい、また経済的理由で働かざるを得ないという人もいないでしょうか。

事前に送付いただいた資料に、保育所に掛ける一人当たりの費用が120万円くらいと書いてありますが、家で子育てする人に120万円をもう少し有効利用することが出来るのではないかと思います。例えば、経済的理由が許せば、自分で保育したいという調査もしていただきたい。

なぜ父母が学童保育に預けたいのかという意識も必要なのではないでしょうか。

文部科学省では「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨していますが、市でも成果が出ていると聞きます。この取り組みと就労との調査も入れてもらえると良いのではないのでしょうか。

中西委員長

保護者の「早寝・早起き・朝ごはん」はどのような状況でしょうか。

津田委員

どうしても親の生活に合わせている。

中西委員長

子どもが夜型の生活になってきている。親教育、親の生活を調べる事が出来ればよいが。現場で親御さんに接していただく教師に返していただければいいと思います。

事務局（青少年育成指導室長）

「早寝、早起き・朝ごはん」について、本市では平成19年度からPTAとともに、3ヵ年事業で「子どもの生活リズム向上事業」に取り組んでいます。幼稚園では全園で取り組んでおります。また、小・中学校についても3ヵ年に1回は必ず当事業を受けていただくよう取り組んでいます。特に幼稚園・保育園での親御さんに対する指導があり、各園長の話しを聞いたところによると、父母の意識が向上しつつあるとのこと。平成21年度で最終の3ヵ年を迎えるわけですが、継続して推進したいと思っています。

日置委員

「アンケートについて」

属性が非常に簡潔になっているが、収入についての設問があってもよいのでは？

回答しない人の声をどう拾うのかという方策を考える必要があるのではないかと。

マニフェストには空調設備の整備について掲げていますが、そうすると夏休みが無くなり、多くの子どもを受けなくては行けないので、更なる財政負担が生じることになるのではないかと思います。

津田委員

夏休みの預かり保育について、非常に利用者が増えてきており、夏場に教員の研修時間などが取れない状況になっています。

中西委員長

過去の経験が知恵になっているが、今の若い人たちの考えがある。夏休みの使い方がたくさんある、国によっては集団生活と学びの人間関係の育成をやっているところもあります。

社会情勢が刻々と変化する中で、先読みをするのは難しいですが、そのニーズを把握するためのニーズ調査であると思っています。

藤澤委員

「アンケートについて」

乳幼児のP7にショートステイの利用についての設問がありますが、市内にあるのでしょうか？

事務局（児童福祉課長）

24時間、最大7日間まで、「エスペランス四日市」でお預かりしています。入所者定員に加えて0歳～1歳は5人、2歳児については常に2人枠取りをしています。

藤澤委員

「ショートステイ事業」をエスペランス四日市にて実施していることを、保護者等は情報として知ら

ないでしょうね。

設問は「保護者の事情により」などの文言にしてはどうでしょうか。

#### 事務局（児童福祉課長）

5年前のニーズ調査は60の設問がありました。今回40の設問に減らしましたが、回答者からすると設問数が多く感じるかと思しますので、レイアウト等を含めて再考します。

「こどもを預けるという前提に調査しているのでは」ということでしたが、「今後のサービス基盤を充実させていくためのアンケート」にしているので、ご理解いただければと思います。

「収入の多寡」について、「共働きの家庭のほうが子どもの数が多い」というデータがありますので、収入は影響してくると思いますが、調査項目の中で収入を聞くことで回答を得られない結果にならないかという思いもあります。

「早寝・早起き・朝ごはん」と、「仕事との関連」については、別のところでアンケートを実施しております。

#### 中西委員長

貴重なご意見いただきありがとうございました。平成20年度の推進委員会は本日で終了となります。1年間貴重なご意見いただきありがとうございました。

平成21年度につきましては、各団体からの代表となる委員の交代があるかもしれませんが、その場合には、プランの内容やこれまでの議論について、新任の委員に引き継いでいただきますようお願いいたします。来年度に後期のプランが策定できるように、委員の皆様ご協力をお願いいたします。

本日はお忙しいところありがとうございました。これをもちまして、「平成20年度第2回四日市市次世代育成戦略プラン推進委員会」を終了します。

これで、本日の議事は終了しましたので、事務局から連絡事項があればお願いします。

（以上、終了11時30分）